

# 各地区業況アンケート結果（31年2月調査分）

（31年2月22日）

全国鉄鋼販売業連合会

2月21日締切で、当会役員146名に対しこのアンケートを行ったところ77名の回答があり（回答率52.7%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。

※  $DI = (A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2) \div \text{総回答数} \times 100$ 、(数は回答実数)

## 1. 前年同月比増は4割弱、DI値プラスで堅調

問1】貴社の1月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	13	17	27	14	6	77	75
比率	17%	22%	35%	18%	8%	DI+22	DI+3
売上金額/前年同月比	20	13	24	12	7	76	75
比率	26%	17%	32%	16%	9%	DI+36	DI+37

## 2. 収益状況若干悪化、黒字は5割に

問2】貴社の1月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	21	18	19	14	5	77	75
比率	27%	23%	25%	18%	7%	DI+47	DI+65

## 3. 自動車向け以外は僅かに減少傾向

問3】貴社の営業窓口から見て2月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向	2	7	29	15	3	56	-18	-12
民間建設向	2	12	33	13	3	63	-5	-2
自動車向	1	7	26	4		38	+13	+3
その他需要家向	1	13	34	14	3	65	-8	-2
仲間取引	2	7	33	18	4	64	-23	-33
計	8	46	155	64	13	286	-10	-10
比率	3%	16%	54%	22%	5%			

## 4. 春先に向け僅かな期待

問4】貴社における向う3月から5月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横ばい	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	3	23	33	15	1	75	71
比率	4%	31%	44%	20%	1%	DI +16	DI +10

## 5. コラム以外は多少需給緩む

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	品種別	A	B	C	D	E		2月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
8	-4	-17	0	0	-7	7	-3	3	0	0	19	11	鉄筋用丸鋼		4	22	4		30	0
-4	7	10	10	10	13	13	0	6	15	7	0	0	構造用丸鋼		3	24	4		31	-3
0	0	-10	-3	-3	-6	0	-9	-3	0	-3	3	0	平角鋼	1	1	31	4		37	-3
25	22	8	-6	-3	10	9	9	3	18	41	41	36	H形鋼	1	5	25	2		33	15
29	48	11	33	38	59	67	76	81	100	125	89	120	コラム	4	14	8			26	85
19	3	0	3	-6	0	-9	-8	-3	-11	5	3	-6	小形山形鋼			33	4		37	-11
-7	0	-13	-18	-12	-3	-14	-11	-8	-11	3	3	-6	中形山形鋼			31	5		36	-14
0	-3	-3	0	-9	-3	-6	-11	-3	-11	5	0	-9	溝形鋼			32	4		36	-11
4	-3	-16	-15	-14	-11	-3	0	-9	-16	-6	-14	-9	軽量形鋼C形			26	5		31	-16
-5	-9	-16	-16	-15	-10	-11	-9	0	-5	-5	-5	0	軽量形鋼広巾		1	19	3		23	-9
44	41	32	4	14	13	8	4	7	12	8	12	0	冷延薄板		2	24	3		29	-3
61	50	31	27	23	12	11	-3	-3	0	17	14	16	熱延薄板		3	25	4		32	-3
73	59	50	40	33	27	14	3	6	3	0	8	0	表面処理鋼板		3	22	5		30	-7
76	80	52	32	25	18	11	-3	-3	-10	20	34	16	酸洗鋼板		3	27	2		32	3
76	55	24	21	19	16	7	5	7	7	20	20	18	中板		6	33	3		42	7
18	21	8	-6	14	14	10	23	31	41	49	45	36	厚板		10	27	4		41	15
-7	6	-6	0	13	0	0	11	25	13	33	19	6	極厚板	1	4	14	2		21	19
-4	3	-7	3	-10	-3	3	3	-3	-7	0	6	-6	縞板		4	28	2		34	6
7	0	-12	-11	-5	-12	0	-7	2	3	16	3	0	中径角		2	36	4		42	-5
-3	3	-9	-8	-8	-6	10	2	-5	0	3	8	13	ガス管黒	1	4	32	5		42	2
-3	-3	-14	-6	-8	-12	3	-2	-5	-3	-3	-8	0	構造用鋼管		3	33	5		41	-5
22	18	5	4	4	5	5	2	5	5	14	14	10	計	8	72	552	74	0	706	2

## 6. タイト感なく価格転嫁は諦めムード

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	北海道の丸棒は完全な不需用期である。案件はほぼない。スクラップ価格の上げ下げを含め様子見が続く。
	B	1月の一般形鋼の荷動きは全く振るわない。しかし、Hグレードファブは冬場にもかかわらず、高稼働状態が続いている。材料の調達は空中戦でほぼ賄っている。倉出しの荷動きは春に期待する。
東北	A	毎年、年始は大幅に販売量が落ち込む月で本年も変わらない。ファブの山積状況は良好で順調。しかし、ヒモ付き案件が多く、倉の出荷量に大きな動きはない。前年同様で推移すれば良い。
	B	生材（特にH形鋼、コラム）の動きが悪い。大型案件が多い。商社の受注でファブへの支給材の仕事が増加。一次加工は忙しく、2月以降も増加傾向。
	C	4月27日から10連休により、4月末の入金が連休後にずれ込むことから4月末の決済資金として使えない。資金繰りに苦しむ会社が多くなると予想される。
	D	12月出荷が好調。その反動もあり、荷動きは低迷。新規物件の引合いはあるものの、成約する物件は少ない。
	E	土木はかなり減少すると思われるが、建築はしばらく好調と思われる。土木中心の会社は厳しくなるのではないかと。
新潟	A	値上げの勢いが落ちている。価格転嫁は道半ばで品薄感はない。
	B	1月半ばまで、前年繰越しの仕事が動いており、荷動きも比較的順調だったが1月20日頃から陰りが見えてきている。今月は稼働日数も少なく楽観視できない様子である。
	C	新規案件も少なく、価格転嫁も進まない。
	D	前月比、メーカーからの在庫時の配車がスムーズになった。相場感は横這いを維持している。
	E	地場産品も含め中国向けが落ちてきた。
	F	今年に入り、季節的要因でやや需要が低迷している感があるが、4月以降は昨年同様期待が持てる。冬場は無理せず、今後のメーカースタンスを顧客に説明していきたい。
	G	建築関連はファブの山積みが高く好調を持続している。住宅関連でも消費税増税による一部前倒し生産の動きがある。その他、季節商品はピークアウト、産機、製缶関連に濃淡はあるが全体的に底堅い。
神奈川		昨年11月中旬頃から年明けも変化なし。需要も落ち着いている。
東京	A	(鋼管) 昨秋から製品タイトが継続する中、もともと実行されていた引受けカット、製造と出荷(運送)遅れのダブルパンチで2月から3月は更にタイトになる見通し。
	B	(薄中板) 年明けから荷動きはあまり良くない。2月に入っても動きは変わらず。
	C	鉄筋の店売りは横這い。
	D	(構造用丸鋼) 堅調であった自動車、建機は、所々で下方修正なる計画が見られているが、数量は底堅く推移している。米中貿易摩擦の影響からか産業ロボット向けや半導体関連では落込みが見られる。昨年11月頃から店売りは不振の様相。

東京	E	(鋼管) 1月後半からやや低調な荷動きになっている。土木分野は堅調で市況は強含み推移である。
	F	(表面処理鋼板) 高炉メーカー、専門メーカーの引受カットは続いているが、店売りの需要環境が良くないため逆に在庫が増えてきている。これ以上は販価改善されないまま在庫が増加しているため最悪の状況である。
	G	(酸洗鋼板) 国内高炉と海外高炉の値差が出始めた。市況軟化の足枷にならないことを願う。やはりタイト感が出ないと値上げムードが出てこない。需要はあるものの価格転嫁できないのは厳しい。依然採算がとれない。
静岡	A	新年賀詞交歓会がひと通り終わった。所感として我々特約店の市況感とメーカーの認識に温度差を感じざるを得ない。暇ではないが、メーカーが言う程の盛り上がりはない。10月の消費税増税に向けて急激な下落はないにしろ先行きの不透明感は拭えない。
	B	状況に大きな変化はないが、鋼材手当てのリードタイム、ファブ(加工業者)の山積み量から来年度の補助金事業が例年通りの日程でスムーズに進捗するか不安の声が一部にある。
	C	1月度は季節的要因が少なからずあるが、出荷量、販売量ともに芳しくなかった。土木建築基礎杭関係も材料手配、施工業者手配に若干、支障が起きているため、現場への入れ込みや着工遅延を来す結果となる。売上は2月に反映されると思うが、先々少し気掛かりである。鉄骨工事関連の応援も本体工事ではなく、手間のかかる内容ばかりである。これを納めなければ竣工できないと思われる。価格を吊り上げる良い機会だが、相変わらず下へ行くほど厳しいようである。請負先がなくなる。大手流通は仕入コスト高にもかかわらず供給量増加でカバーできている。隙間商売がなくなり中小企業の我々は辛い。
石川	A	中央官庁の怠慢と手抜きを物語る出来事が続いている。騙し、行動不足、不正行為、上から目線、人員過剰、不良公務員。一般国民の考動とは裏腹に官僚は勝手に非常識な行動をとっている。人間性が腐りきっている。是正するのは、直接顔を合わせる議員。国民は頼りにしているのだが。
	B	荷動きに力強さがないため道半ばの価格転嫁はもはや諦めムードになっている。原価意識や適正な対価については皆でもっと考えなければならない。企業の本資が不足しては従業員に還元したくてもできない。業界として魅力が下り続ければ採用が益々困難になるどころか将来に不安を覚えた若い人達が連鎖的に退職の道を選ぶことにもなりかねない。鉄鋼業界の店売り部分を担う我々流通は身体で言えば毛細血管の役割を果たすが、その重要性を考えれば皆がもっと自信やプライドを持ってよいのではないかと。
富山	A	地元の公共物件が少ない。民間設備は堅調である。産業廃棄物輸出处で更なる分別が生じ鋼製化したゴミ箱の需要が伸びている。
	B	建築の見積案件が多いが、ボルトの納期が遅れており施工主・ゼネコンが困っている。
岐阜	A	年末からブレーキがかかり、動きが悪い。在庫は多くないが、需要が少ないのでタイト感もない。建築は一休みなのか納品がない。当方からの物件見積依頼は早く回答してくれる。産業機械は前年10～11月の様な勢いはない。ユーザーは退社した職人の補充がきかず、加工内容が限定されていると良く聞く。
	B	建築関連は昨年の秋口からの先行発注の影響と稼働日数減で一服感が出た様子。しかし、一次加工の仕事は出ている。コラムの納期も逼迫感が薄れてきた。産機、設備関連は業種によって仕事量の差が見受けられる。

愛知	A	集鋼は設計変更で大口がなくなり、量的にもダウン。今シーズン、家具の出足が悪かったが少し回復。陳列向け更に悪化。
	B	設備関連のユーザーの仕事が細かくなっている。また、加工品の比率が高くなっている。鉄筋メーカーは細物でも1ヶ月ほど納期がかかっているが、新規引合いは低調。ファブからコラムの納期の問い合わせが多い。
	C	1月の売上は前年比減で動きは悪い。年度末の需要に期待しているが、それ程でもない。自動車はそれなりに生産しているが、他が悪すぎる。3月以降が心配である。
三重		中小物件を手がけるファブはボルトやコラムの納期の不安定さを理由に仕事を取れないというより、あえて取らないでいる。その背景にはHグレードファブの応援という形で単価がよくリスクの少ない仕事がいくらでもあるという現状がある。メーカーもファブも大きな利益を出すなか、現物商売の流通業者にとってはあまり良い環境とは言えない。
大阪	A	運送、加工に関する経費増を販価へいかに転嫁するかが課題。
	B	戸建住宅はそこそこ堅調に動いているが、鉄骨物件はハイテンボルトの不足から、ここへきて少なくなった。例年この時期は公共、土木工事が集中するが、今年に限って大型土木工事の件数が少ない。また、小型物件しか出てきていない感じがする。
	C	建築需要は堅調だが、ハイテンションボルトの入手難により、中小物件の工期に影響が出ており荷動きが落ち着いている。
岡山		自動車向け、農機具向けのパイプ加工の需要はあるが、人手不足で取りにいけない。中小零細企業の廃業で下請けも減少、自動車業界の締め付けがきつく企業が存続の危機というところが多い。
香川		年明けから荷動きは芳しくない。流通各社の値上げのトーンも下ってきた。スクラップ下落の影響か需要も様子見である。愛媛地区では昨年の豪雨の災害復旧工事がぼつぼつ出てきそう。
北九州	A	1月中旬より荷動きが落ちついたように思われる。実働日も少なく、扱い数量は減。スクラップは弱含み横這いだが、メーカーに下げる気配はみえない。運賃経費などは上っており、利益確保に苦慮している。
	B	先月と状況は変わらない。相変わらず人手不足で鋼材消費は少ない。
	C	HTボルトが入らず仕事が停滞している。今年から倉出即納品は低迷。メーカーの販売姿勢は強いが、値下げ商売が増えてきた。加工は出図（しゅつず）遅れで手間がかかり非常に多忙な割に加工賃が上らない。輸送も付帯業務禁止の動きが目立つ。特約店の場合混載が多く混乱するのは必至。